

江戸時代の俳人って、 現代のミュージシャン かも。

江戸時代の俳句って
どういうもの
だったんですか？
稲葉先生、
教えてください。

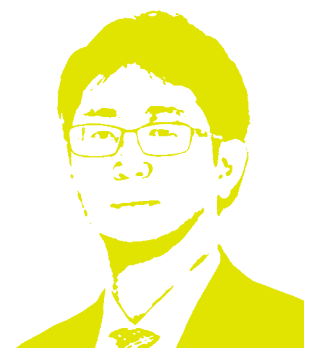


江戸時代の有名な俳人といえば、松尾芭蕉。

学校の授業では、芭蕉の閑寂な句の世界観や、わび・さびなど、高尚なイメージだけ語られて終わってしまうと思います。確かに芭蕉は自分の作風として、閑寂な句をつくっていましたが、実際は「時代の最先端行こうぜ！」という先駆的な人でした。「新しきは俳諧の花也」。

俳諧の本質は斬新さにあると言われます。芭蕉の句は、当時の最新ヒットチャートを賑わせ、江戸時代の人は、新しい流行が出てきた！と飛びついていたわけです。そんな芭蕉の一番弟子、たからい きかく宝井其角。現代ではあまり知られていませんが、華やかな江戸を拠点とする気鋭の俳人として、芭蕉以上に有名でした。言葉遊びや、技巧的な句を持ち味としており、現代でいうとライブを盛り上げるラッパーのような人。表現の方向性は違っても二人はお互いを認め合い、「連句」といういわゆる言葉のジャムセッションでもコラボをしています。現代社会では新しい「もの」や「こと」が大事とされていますが、文明は進化しても、その人の持つセンスはその人独自のもの。この時代の人たちのユニークな視点や作品に目を向けてみると、現代でも楽しめる、面白い発見があると思います。

総合文化学科
准教授 稲葉有祐



大学案内・入試ガイドブック・過去問題集などの資料請求受付中！
和光大学ホームページからご請求ください（無料）

- 現代人間学部
- 表現学部
- 経済経営学部

小田急線鶴川駅から
徒歩約15分
www.wako.ac.jp

ひとりを光らせる
和光大学